



# インターナショナルスクール体験談

Drafted by: Intern Eri Sumino

Edited by: Commercial Specialist Kazuko Tsurumachi

August 2015

米国大使館商務部の2015年夏のインターン生として一緒に働いてくれたEriさんがご自身のインターナショナルスクールの体験をレポートしてくれました。インターナショナルスクールの学習スタイルは日本の授業手法とは大きく違うようです。大学進学への意思決定や将来のキャリア設計にどのような影響を与えるのか、どのようなスキルを身につけることができるのか、ご興味をお持ちの皆様にご参照頂ければ幸いです。

\*-\*

日本にはインターナショナルスクールが約27校あります。私は調布にあるアメリカンスクール・イン・ジャパン(ASIJ)に7年半通っていました。

このレポートでは、私がインターナショナルスクールに入学したきっかけ、受験、インターナショナルスクールの魅力などについて書いています。

このレポートを読んで下さった方々がインターナショナルスクールに興味をお持ちになり、お子様がインターナショナルスクールで学ばれることについてのご参考になればと思います。なお、情報は私が在学中のものであり、最新情報の詳細は下記のホームページをご参照下さい。

## アメリカンスクール・イン・ジャパン The American School in Japan (ASIJ)

URL: <http://www.asij.ac.jp/>

小学校 (5年間) : 一クラス 15-20人、一学年 4-5クラス。日本語以外の授業はすべて英語。

中学校 (3年間) : 一クラス 約 20人。選択科目は語学、合唱、オーケストラ、バンド、コンピューター、図工など。語学はレベル別。必須科目も各先生の教室に行って受けるので、各生徒は自分の時間割を持ち、授業と授業の間にそれぞれ教室を移動し、各授業で違う生徒と一緒に学ぶシステム。

高校 (4年間) : 一クラス 約 20人。一学年 約 120人。各教科がレベル分けされていて、AP (Advanced Placement) という大学レベルの授業も受けることができる。

大学進学 : 日本、イギリス、カナダやオーストラリアの大学に進学する生徒もいますが、大多数はアメリカの大学に進学しています。

中学校と高校にはアドバイザーシステムがあります。一人のアドバイザーの先生につき生徒は約10人。毎朝、まず始めに自分のアドバイザーの先生のクラスに行き、お互いに連絡事項を伝えたり雑談します。困ったことがある時にはいつでもアドバイザーに相談できます。この他に心理カウンセラーや看護師、広い図書室に常駐している図書の先生、大学進学カウンセラーなど、生徒一人一人のためのサポートがあります。

先生方の大半はアメリカとカナダ出身ですが、イギリス、オーストラリア、ヨーロッパや日本出身の先生もいらっしゃいます。

### 入学を決意したきっかけ

父の仕事の関係で、日本または海外、いどこに転勤になるかわからなかった為、幼稚園から高校までの一貫教育のインターナショナルスクールが良いと両親は思いました。インターナショナルスクールは毎年、転校生が多いので、学校側も生徒たちも受け入れに慣れていて、転出転入がスムーズです。東京に引っ越した時、日本の幼稚園と小学校も見学しましたが、一クラスの生徒数が多く、管理教育を重要視し、生徒一人一人の個性を引き出そうとはせず閉鎖的な傾向が強く、私には合わない両親は感じたそうです。体験入学もしてみましたが、ずっと日本の学校に通いたいとは思いませんでした。ASIJには、それぞれの生徒が何に興味を持ち、何が好きで、何をやりたがっているのか、得意なことを伸ばし、苦手なことをしっかりサポート、お互いの多様性、異文化を認める自由闊達さ、そして先生と生徒と親がお互いによく質問し、よく話し合い、情報を共有しあう風通しの良さがあります。それで私は日本の学校ではなく、ASIJに行くことにしました。

### 受験・応募方法

**必要書類**：申込書、在籍していた学校の成績表、前の学校の先生からの推薦状。

**面接**：面接としてではなく、学校見学として予約を取って学校訪問した際に、面接のような質疑応答がありました。すべて英語なので、自分のことについて具体的な例を挙げながら、ハキハキ元気よく話せると良いと思います。

親の面接として呼ばれたわけではありませんが、学校見学の際の校長先生やアドミッション・オフィスの方たちとの雑談が面接のようだったと両親は言っていました。

**学校見学**：アドミッション担当の方が校内を案内してくれつつ、いろいろ質問がありました。

英語力、学習能力、普段の生活態度、家庭環境、前の学校での様子や性格をチェックするような質問でした。また、私たちからもいろいろ質問できる良い機会でしたので、学校見学はおすすめします。学校の雰囲気がよくわかりますし、予約を取って学校を見に行くと、学校に興味があるということがアピールできると思います。

ASIJへの入学は通常8月ですが、父の転勤で急遽東京へ引越すことになり、12月にまず父が学校見学に行き、1月に帰国してすぐ母と私も学校見学に行きました。どちらも見学時間は約1時間でした。

**結果報告**：編入のため、受験の結果の決まった発表日はなく、学校見学の翌日くらいに学校から電話があり、「是非編入してほしいが、年度途中で現在空きがないので、他の幼稚園に行きながら欠員待ちをしてほしい。」と言われました。その3週間後に空きが出たと連絡があり、ASIJに編入となりました。

学科や実技試験はありませんでした。

受験情報：<http://www.asij.ac.jp/apply>

学費情報：<http://www.asij.ac.jp/tuition>

### 入学後に驚いた事

私の両親が驚いたことは、日本語、音楽、体育、図工、図書、カウンセリング、ラーニングサポート、アシスタントなど、担任の先生以外にも先生がたくさんいて、先生方は何かあれば電話やEメールですぐ連絡して下さり、また両親も何か質問等があつて先生にEメールすると、すぐ先生から返信があり、学校と父兄のコミュニケーションがとても良好で、私の学校での様子がよくわかったことだと言っていました。父兄の学校ボランティアは強制や当番ではなく希望者のみで、遠足の付

き添い、イベントの手伝いなど、気軽に父兄が参加できるボランティアがたくさんあり、先生や他の父兄と話せる良い機会で、楽しかったと言っていました。

### インターナショナルスクールの魅力（入学して得たもの）

ASIJに通ったことは、私の価値観や性格に大きな影響を与えたと思います。ASIJではディスカッションとプレゼンテーションをする機会がたくさんありますので、先生が一方向的に生徒たちに話すのではなく、全員参加型の授業を重要視しています。先生や他の生徒の意見は聞きつつ、自分の意見もはっきり言うことの大切さを学びました。生徒たちは自分から手を挙げて、積極的に発言をするので、先生からだけではなく、他の生徒からも新しい考え方を学び、知識を得ることができました。私はASIJに通ったことで、何にでも挑戦し、人前で話すことや間違えることを恐れず、前向きになれたと思います。いろいろな良い機会があるので、その中で自分の好奇心を模索し、自分でよく考えたうえで色々なことを試し、より自分の興味のあることを追求し、可能性を広げ、判断力を身につけることができると思います。

例えば、私の小学校5年生の時、尊敬する人についてプレゼンテーションを行いました。私のプレゼンテーションが学年代表に選ばれ、その結果、私の尊敬している方の行っている東南アジアでの眼科手術ボランティア活動に学校が寄付することになったのです。学校全体の先生方や生徒たちが寄付金を集めるためのイベントに参加して下さりました。そのイベントで、私は全校生徒の前でスピーチをし、学校がお招きした尊敬するご本人からもスピーチを賜りました。私はこの経験を通してプレゼンテーションのスキルが上がり、小学生からリーダーシップ経験を味わいました。

生徒たちの国籍は37カ国以上です。様々な国や地域出身の生徒たちと一緒に授業を受けることで、生徒同士で様々な国や文化のことを学ぶことができます。小学校の間は、毎年授業中に決められた2-3カ国の歴史と文化について学ぶというカリキュラムがあり、私はこれはとても楽しかったと思いますし、日本以外の国に興味を持つきっかけになったと思います。お互いの意見の違いや異文化を認める自由闊達さもインターナショナルスクールの素晴らしさだと思います。みんなが違って当たり前なので、無理に周りに合わせたり、自分の考えや好みを出さないようにしないといけないというプレッシャーはありません。日本は集団である事を大事にし、アメリカは個々人を大切にしている違いは大きいと思います。

ASIJは、それぞれの生徒が何に興味を持ち、何が好きで、何をやりたがっているのか、得意なことを伸ばし、苦手なことをサポートしてくれます。各クラスの人数は日本の学校に比べたら少なめです。

ASIJは毎年、200人以上の転校生を受け入れるので、とても明るくてフレンドリーな環境です。大半の生徒たちは親の仕事の転勤が多く、いくつかの国に住んだことがあるので、転校生の気持ちもわかります。その結果、お互い支えあい、先生方も生徒たちも転校生に気軽に話しかけます。転校生が簡単に馴染める温かい環境もインターナショナルスクールの良い所のひとつだと思います。私は東京からアメリカに引越し、ASIJからアメリカの公立中学校、私立女子校に転校しましたが、ここでは転校生への配慮は特になく、最初のうちは、かなり大変でした。わからないことがあったり、困っていても、先生方も生徒たちもそれぞれに忙しく、誰に何を聞いても答えを得られないことがよくありました。アメリカの現地校生活を経験したことで、当たり前だと思っていたインターナショナルスクールの明るい、気さくな環境が貴重だったことに気づきました。

ASIJに通ったことで、私はより明るく元気で、物怖じせず誰とでも話せ、視野が広く、好奇心旺盛でいつも前向きに努力し、積極的で楽天的になったと思います。日本の学校に行っていたら、より従順で、まわりとの調和を大切にし、あまり自分の意見や希望は言わず、質問もせず、いつも前例

やルールに従って、間違えないように、叱られないように、もっと慎重に無難に行動するようになっていたと思います。

インターナショナルスクールに通うだけでバイリンガルになるのは簡単ではないと思います。私の両親は日本人ですが、日本語と英語、両方話します。私が生まれた時から、家では父とは英語、母とは日本語、インターナショナルスクールでは英語、合唱、水泳、柔道などの習い事は日本語といった形で日本語と英語をバランス良く使い分けるようにしていました。ASIJでは日本語より英語の方が強い人がほとんどです。ASIJの小学校の日本語の授業は2日に1回と多くはありませんでしたが、レベル分けされていて、日本語の先生方が素晴らしく、宿題の他に漢字のワークシートや日記や読書感想文を毎回提出すると、先生が必ず添削してコメントを書いて下さり、とても励みになりました。ASIJの先生のお陰でそれを夏休みや冬休み中も続けられたことが、日本語の読み書き上達に大変役立ったと思います。

アメリカンスクールでは、様々な業界や国でご活躍されている方々がスピーチやプレゼンテーションをして下さる機会があります。今までのゲストスピーカー：ブッシュ元大統領（ブッシュ シニア）、コンドリーザ・ライス（元米国務長官）、菅直人（元首相）、ジョン・ルース（前駐日米国大使）、ヨーヨー・マ（チェリスト）、平井一夫（ソニーCEO）このような方たちの貴重なお話を伺うことで、生徒たちはいろいろな世界をもっと身近に感じ、将来どのような仕事や経験をしたいかを考えるきっかけにもなります。このような機会があるのもASIJの素晴らしい所だと思います。

その他のゲストスピーカーの情報：<http://www.asij.ac.jp/speakers>

### 自己紹介

私はロンドン生まれの日本人で、日本語と英語のネイティブです。ロンドンのサウスバンク・インターナショナルスクール(Southbank International School)に2年半通ってから、父の転勤で東京に引っ越し、アメリカンスクール・イン・ジャパン(ASIJ)に7年半（幼稚園～7年生）通いました。その後、父のニューヨーク転勤に伴い、ニューヨーク郊外の現地の公立中学校に1年間、そして高校4年間はグリニッジアカデミー(Greenwich Academy)私立女子校に通いました。現在、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)に通っています。

UCLAでは日本人サークル(Japanese Student Association)とスペイン語サークル(Spanish Language Circle)に所属しています。他の日本人学生との情報交換や、スペイン語が好きな生徒たちとスペイン語で話したりします。大学の合唱団にも所属していて、大学生と大学院生と一緒に歌を通して関わられる場です。時々、ロサンゼルス公立小学校でボランティアもしています。小学3年生の日本語のクラスで、日本語を勉強中のアメリカの小学生が楽しく日本語と日本の文化について学べるようにお手伝いをしています。

### 今後の目標

将来、国際関係の仕事に就きたいと思っています。日本語、英語とスペイン語が使える環境で様々な国の人と接する機会のある仕事を希望しています。

### 最後に

インターナショナルスクールで学び、いろいろな経験を通して、より幅広い国際的視野を持った子供達がこれからももっと世界中で活躍する事ができたら、日本はより素晴らしい国になっていくと思います。より多くの日本の子供達が英語を学び、異文化を学び、自分のしたい事を見つけて、世界へ羽ばたいて行くことを期待しています。